日本中国語学会会報　2022年12月

https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶　　竹越　孝（日本中国語学会会長）……1
2022 年度全国大会総括……2
支部例会実施報告　2022.6 - 2022.12……3
会議報告……7
例会および全国大会開催のお知らせ……14
事務局からのお知らせ……14

ご挨拶　　竹越　孝（日本中国語学会会長）

2022 年も暮れとなりました。まだ予断は許さないものの、世間ではコロナ後の世界に向けて、本格的に歩みを進めつつあるように思われます。

本学会では、10 月末に会誌『中国語学』第 269 号を刊行するとともに、11 月初に第 72 回全国大会をオンライン形式で開催しました。依然として制約の多い中で、学会活動の二本柱である学会誌の刊行と全国大会の開催が無事行われたことに安堵しています。刊行・開催にご尽力下さった編集委員会と大会運営委員会の皆様、特に今期をもって退任された前委員長の千葉謙悟先生と前田真砂美先生に、深甚の感謝を申し上げます。

かねてから告知しておりました通り、本年 10 月 13 日に、岩波書店より『中国語学辞典』が刊行されました。発売開始直後に初刷分が品切れとなったばかりか、順調に二刷、三刷と続いています。予想外の反響に驚くとともに、改めてこの辞典の刊行が諸方面からの待望久しいものであったことを感じました。言うまでもなく、この辞典は総勢 180 名を超える本学会会員の惜しみない協力によって完成したものです。皆で作った辞典ですので、皆で使って、次のステージを目指して皆で乗り越えていく。これが、この辞典を世に問うた本学会の使命ではないかと思います。

さて、私は昨年度サバティカルの機会を得て、コロナ禍のフランスに半年ほど滞在しました。優雅な生活とはほど遠く、言語や生活習慣の違いに戸惑うばかりの毎日でしたが、そこで有益だった催しの一つに、“Method in Sinology”というオンラインセミナーがあります。これは、スイスのチューリッヒ大学とアメリカのペンシルベニア大学に属する大学院生が企画した中国学の連続講座で、一つのトピックについて 2 時間の講義が 2 回、申し込めば誰でも聴講可能というものです。歴史、

文学、思想、美術等、様々な分野が取り上げられる中で、もちろん中国語学のパートもあり、フランスとチェコの中堅研究者が力のこもった講座を行っていました。最初は英語の勉強になるだろうというくらいの軽い気持ちでしたが、ことのほか興味を惹かれ、毎回セミナーの始まる木曜日の午後 6 時が待ち遠しいぐらいでした。この催しは、本学会の「中国語学セミナー」に近いものと言えますが、企画立案、講師との交渉、当日の運営など、すべてを若い世代が主体となって行っていることが私にとっては新鮮で、彼らのバイタリティに驚かされました。

コロナ禍は我々の研究活動にも様々な制限をもたらしましたが、居ながらにして国境を越えた繋がりが生まれる可能性をも秘めています。こうした新たな試みが、日本に暮らす若い世代から生まれてくることを期待したいと思います。

［2022 年 12 月 10 日記］

2022 年度全国大会総括

Ⅰ．今年度大会総括

第 72 回大会は、11 月 5 日（土）・6 日（日）にオンライン（開催校・富山大学）で開催されました。

(1) 参加者数

第 1 日目（招待講演・ワークショップ）の参加者は 150 名前後、書店展示・ポスター発表を含むバーチャル会場（oVice）の利用者は 2 日間で約 80 名程度でした。賛助会員による書店展示への参加は、第 1 日目の動画配信が 6 社、第 1 日目・第 2 日目のバーチャル書店展示が 12 社でした。

(2) 総評

今大会は第 71 回大会に続いて全面オンライン開催となり、講演・ワークショップ・分科会研究発表・ポスター発表・書店展示・総会のすべてがオンラインで実施されました。

オンライン開催にあたっては、応募規定や大会プログラムの他に、発表者マニュアル・参加者マニュアルを作成、掲載しました。予稿集電子版は 10 月 31 日に公開に至りました。これら各種資料の公開に際してはウェブリソース委員会より多大なお力添えを頂き、また、分科会研究発表の Zoom ホストについては本委員会委員以外の方にもご協力いただきましたことを、併せてご報告し、厚く御礼申し上げます。

大会 1 日目は、望月圭子会員（東京外国語大学）と古川裕会員（大阪大学）による招待講演が行われました。望月圭子会員の演題は「从语料分析的角度看学习者的母语类型与汉语的习得」で、助動詞“会”、結果補語、“一＋量詞＋名詞”を例に、学習者コーパスを使用した誤用分析および誤用と母語の類型との関連について述べられました。古川裕会員の演題は「文法研究から文法教育への貢献――数量名詞句をめぐる構文横断的研究を例として――」で、〈出現〉〈存在〉〈消失〉をキーワードとして、存在現象構文、二重目的語構文、変化事象を描く文がそれぞれ数量詞を必要とする理由について述べられました。ご講演くださったお二方、準備や当日の司会をご担当くださった開催校・富山大学の福田翔会員、

そしてご参加くださった会員各位に、心より御礼申し上げます。

続いてのワークショップは、鈴木慶夏会員の企画による報告（「文法教育の現場から考える教育文法の課題」）が行われました。学習者を文法事項の使用者（user）と位置づけ、教育文法の観点から主題化、存現文、様態補語の各トピックについての報告がなされました。予稿集には QR コードを掲載し、リンク先の google フォームで随時コメントや質問を受け付けるという、ワークショップに適した意見交換の手法が採られました。

(3) 今大会で見られた問題・課題

予稿集原稿に関して、規定の書式と異なるものが多数提出され、修正のうえ再提出を求めました。また、複数回にわたって督促を受けたにも関わらず提出が大幅に遅延したものがあり、当該会員には「第 72 回全国大会研究発表応募規定」第 9 項に基づき「理由書」の提出を求め、かつ、厳重な注意を促しました。かねてより予稿集原稿と当日の提示資料との乖離が問題となっており、予稿集原稿の執筆期間を長く取ることでそれを解消すべく、今大会から提出期限を従来の約半月後に設定しています。原稿の遅延や書式逸脱による再提出は予稿集作成作業において重大な障害となりますので、今後、より具体的な策を講じることも視野に入れて、対策を検討します。

また、質疑応答でのチャット使用や、オンライン開催における時間管理や残り時間の通知の方法、大会で用いる言語などについてもご意見が寄せられました。これらについては慎重な議論が必要ですので、引き続き検討を重ねて参ります。

II.来年度の全国大会にむけて

来年度の第 73 回大会の開催校は、目白大学（代表：伊藤大輔会員）がお引き受けくださいました。開催形態や開催日、および、ワークショップの応募期間、分科会研究発表・ポスター研究発表の応募期間等の重要事項については、決まり次第、学会ウェブサイトにてお知らせします。

予稿集原稿については、今大会で見られた書式等の逸脱、提出遅延等の問題が大会の準備に深刻な影響を与えることをご理解いただき、テンプレート使用による作成および提出期限厳守をお願いいたします。

（大会運営委員会）

支部例会実施報告　2022.6 - 2022.12

◆関東支部例会

◇第 1 回 : 2022 年 9 月 24 日（土）午後 1 時～
オンライン（Zoom）による開催

・劉淼 :『紅楼夢』に見られる“茶”に関連する動詞について

白話資料には“茶”に関連する動詞が多く見られる。例えば、「茶を飲む」を表す動詞としては“喫”や“喝”などがあり、「茶を淹れる」を表す動詞では“斟”や“倒”が代表的である。また、各動詞の構文的バリエーションも豊富で、“捧上茶來”、“喫完了茶”など多

岐に渡る。さらに、使用傾向の地域差も存在しており、南方では“泡茶”が多用される一方、北方では“沏茶”が多用される。先行研究はわずかであるため、本発表では喫茶の描写が非常に多い『紅楼夢』を取り上げ、“茶”に関連する動詞とその構文的特徴を記述する。加えて、時代別・作品別白話資料における“茶”に関連する動詞の出現頻度や構文の傾向といった特徴も明らかにする。

・砂岡和子（早稲田大学）・杉江聡子（札幌国際大学）・王松（関西外国語大学短期大学部）・曲明（室蘭工業大学）: 学生を指す―潜在的期待からの教学再考

筆者チームが 2021 年度に実施したハイフレックス中国語初級クラスの Action research では、教員が「学生指名」に用した時間は全授業の 18%、全活動回数の 22%を占め、「学生への個別フィードバック」とほぼ同比重であった。本発表はオンライン授業期と対面授業後に実施した学生アンケート調査に基づき、「学生を指す」行為を切り口とし、教員と学生間の潜在的教学期待(Hidden agendas)の乖離を指摘する。遠隔教育を経験した教員が、従来の教員主導型授業を見直し始めているのに対し、学生側の均等指名と予定調和的秩序へのこだわりは変わらない。発表では両者の教学期待合致に向けた方略にも言及する。

◆関西・四国支部例会

◇第 1 回：2022 年 6 月 4 日（土）午後 1 時半～　オンライン（Zoom）による開催

・季鈞菲（神戸市外国語大学）：重紐反切における C 類上字について

中古 C 類字は大量に中古重紐反切上字として用いられている。しかし、その使用状況に関する研究はまだ多く見られていない。本発表では 17 種の中古の主要な資料に見られる重紐反切を収集し、そこに用いられる C 類上字を考察する。考察結果として、C 類上字はほとんど全ての資料において多用されているが、A 類帰字の反切に多用するか、それとも B 類帰字の反切に多用するか、つまり、使用上の傾向と時系列との関連性は見られない。従って、従来の研究に対し、本発表は中古 C 類上字の使用上の傾向の変化が C 類字音韻の通時的変化だけに帰結するということは難しいと主張したい。

・秋谷裕幸（愛媛大学）: 原始闽北区方言的舌叶音声母

原始闽北区方言里要构拟一组与 ts 系声母有区别的舌叶音 tʃ 系声母，即*tʃ、*tʃʰ、*ʃ、*ʒ。tʃ 系声母主要是在*i/iʔ、*ɨ、*iŋ、*iəŋ、*y/yʔ、*ui/uiʔ的前面与 ts 系声母构成对立，如“死”*si3＞建阳 sɔi3、崇安 sɜi3≠“屎”*ʃi3＞建阳 ɕi3、崇安 ɕi3。此外，我们还可以发现 tʃ 系声母的零星痕迹。比如“省～钱”闽北区方言一般读作[saŋ3]。但崇安方言却读[ɕiaŋ3]。“省”的原始闽语可以拟作*ʃaŋtone2。这种读音保存到原始闽北区方言。绝大多数闽北区方言中发生了*ʃaŋtone2 原始闽语＞*ʃaŋ3 原始闽北＞saŋ3。崇安方言则发生了*ʃaŋ3＞*ʃiaŋ3＞ɕiaŋ3。这个语音演变与自原始闽语至原始闽北区方言“争”字的演变平行，即*-tʳaŋtone1 原始闽语＞*diaŋ1 原始闽北，都是以舌叶音和主要元音*a 为条件介音 i 的增生。

・鄭雅云（京都大学）：台湾華語における一回限りの事態を述べる「會」文：未来用法と推量用法について

本発表は、台湾で話される漢語共通語変種における助動詞「會」の諸用法のうち、一回限りの事態にかかわる未来用法と推量用法について考察する。これらの両用法について、先行研究ではしばしば「主節におけるテンスの解釈の違い」として捉えられることがある。

しかしこの区別のしかたでは説明される現象は少ない。そこで、本発表では、まず両用法を「話し手の主観的な認識の違い」で把握すべきことを提案する。その上で、「會」の生起が義務的でない疑問文に着目すると、「會」の有無によるニュアンスなどの差は、疑問文における両用法の違いを「話し手が聞き手の知識をどう認識しているか」と捉えることにより説明できると主張する。

・蔡宜霖（神戸市外国語大学）：好悪の感情を表す述語に関する日中対照研究：「好き」「嫌い」、「喜歡」「討厭」のコーパスを用いた分析

趣味・嗜好を現す中国語の「喜歡」と日本語の「好き」は、それぞれ、非母語話者の言語教育において早い段階で登場する語彙である。両語は意味的に対応するとされているが、日中両言語において様々な異なる特徴が観察される。本研究では、それらの異同について、日本語と中国語のコーパスを用いて、主に中国語の「喜歡」と日本語の「好き」、及び、それぞれの対義語である「討厭」、「嫌い」のコロケーションなどを調査・分析した。その結果、「喜歡」「討厭」と「好き」「嫌い」には異なる方向性の非対称性が存在することが判明した。本発表では、その非対称性が品詞性と対人配慮による肯定と否定の選択傾向の相違によるものであると主張する。

◇第 2 回：2022 年 12 月 11 日（日）午後 1 時半～　オンライン（Zoom）による開催

〇研究発表

・李筱（大阪大学・院）：中国語の文頭二音節についての発音実験：日本人学習者を対象に

本研究は、日本人学習者 20 名と中国人母語者 6 名を選び、単独で発音する二音節と文頭において発音する二音節についての発音実験を行った。学習者が単独で発音するデータと文頭で発音するデータをそれぞれ母語者と比較し、平均値、差値平均値と偏差値を算出した。結果として、第一に、文頭第二音節の偏差が最も大きいということが分かった。第二に、二音節の声調の組み合わせは習得の難易度に差があり、文頭の「三声＋二声」は最も発音しにくい声調の組み合わせであることが明らかになった。第三に、文に入ると声調が変化する音節について学習者は習得できず、完全な声調で発音する傾向があることが判明した。

・陳凱僑（神戸大学・院）：潮州語動補構造の目的語後続制約における韻律の役割

本発表では、［動詞＋結果補語］二音節構造の目的語後続許容度に着目し、普通話と潮州語を考察対象とした対照研究を行った。調査の結果、二音節動補構造の目的語後続が普通話では許容されやすい一方、潮州語では話題文・処置文などの形で目的語を前置させる必要があることが判明した。方言間におけるこの文法的相違について本発表では、潮州語の韻律構造は普通話と異なり「1 つの音節ごとに 1 つの韻律語」を構成するため、二音節動補構造は一語として再解釈されにくくなるが、同時に馮勝利氏が提案する普通ストレス規則の制約を受けるため目的語の後続が強く制限されると主張する。

・野原将揮（京都大学）、秋谷裕幸（愛媛大学）：一个表示｛圆｝的词族

表示｛圆｝的词语可视为属于人类语言的基本词。本文根据上古音和出土文献中的通假等现象分析｛圆｝义词族 KRON/KROR。本文还要涉及卷声字、廾声字等的上古音。这些字都带有唇化元音*-o-，声母当为牙喉音。接着我们来分析吴闽语的｛圆｝义词。吴闽语的｛圆｝

义词往往是双音节词，具体音值也很相近，应该是“囫囵”的同源词。闽东区方言中的｛整个｝义词与吴语婺州片方言、闽北区方言的｛圆｝义词十分相似。闽语闽北区、闽东区和吴语婺州片永康和武义方言中的｛圆｝义词或｛整个｝义词的共同早期形式可以拟作*g-2lon2。｛圆｝义词族 KRON 与吴闽语的*g-2lon2 词义一致，音值也十分相似。我们认为两者之间存在某种继承关系。

・平田昌司：平山久雄氏『敦煌《毛詩音》音韻研究』について（回線不調につき中断）

2022 年 8 月、平山久雄氏の 1980～90 年代の講義記録に拠る『中古音講義』（汲古書院）が刊行された。ただし、平山氏『敦煌《毛詩音》音韻研究』（好文出版、2018 年）は、中古音の音韻論的解釈につき、(1)介音と主母音は“結合體”(p.14 脚注 5)；(2)陸志韋・邵榮芬説に従い常母 ʤ : 船母 ʒ に；(3) 円唇的軟喉蓋音韻尾の表記を-ʷŋ に；(4)二等韻の ɐ-, uɐ-を æ-, uæ-に；(5)佳韻を耕韻と相配させて æɯ, uæɯ に；(6)支韻を ie, ye に；(7)三等合口介音を y に等、それ以前の見解を修正している。平山氏による中古音解釈は『敦煌《毛詩音》音韻研究』が最新の説である。

〇講演

・岩田礼：視覚系から時空系へ：日内・日外時間の表出形式をめぐって

古代中国語では、〈よる〉〈あさ〉(=日内時間)の概念も〈きのう〉〈あす〉(=日外時間)の概念も、〈日没〉(=暗い)、〈日の出〉(=明るい)に関連する知覚系語形によって表されていた。唐宋以降、時間詞の体系は日内・日外を問わず、全体として視覚系から時空系への転換が進んだ。日外時間については、〈きのう〉〈あす〉の前後の日を表わす形式が方位成分によって語彙化され、指示代名詞の牽引によって時間詞マーカー“个”を有する形式（“今日个”等）が北方方言に現れた。“上月”、“下月”の出現もこれらと連動する。日内時間については、“夜里”、“早上”、“晚上”の出現がある。なぜ“里”を取り、“上”を取るに至ったのかを考察する。

◆九州支部例会

◇第 1 回：2022 年 7 月 9 日（土）午後 1 時～オンライン（Zoom）による開催

・宮下尚子（福岡大学）：元代漢語の動詞 “借” ―『元刊雜劇三十種』の用例を中心にして―

現代中国語の“借”は借り入れと貸し出しの両方を表現するために使用される。“借”がどちらを意味するかは、主に文の構成により決定され、“借給…”は「借りる」、“跟…借”は借りた人を挟んで「貸す」、などとなる。近世における“借”の意味は、元曲元刊本の用例では次のように分類できる。①借入 1：借將＋〔借りるモノ〕＋來、②借入 2：交＋〔借りるヒト〕＋借＋〔借りるモノ〕、③貸出：借與＋〔借りるヒト〕＋（箇）＋〔借りるモノ〕、④借入・貸出：借＋〔借りるモノ〕。本発表では、以上のような資料を参考に、元代において介詞“給”“跟”が未発達であったこと、動詞と介詞の語順が動詞先行の傾向にあったこと、などを論じる。

会議報告

■ 2022 年度第 2 回理事会

日時：2022 年 11 月 4 日（金）16 時～19 時（Zoom によるオンライン会議）

出席者：竹越孝（会長）；丸尾誠（副会長）；秋谷裕幸、遠藤雅裕、佐々木勲人、古川裕、三宅登之、吉川雅之（以上理事）；千葉謙悟（編集委員長）；前田真砂美（大会運営委員長）；鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）；秋谷裕幸（学界展望編集委員長［兼任］）；大西博子、西村英希、濱田武志（以上幹事）

■ 2022 年度評議会

日時：2022 年 11 月 5 日（土）10 時 15 分～11 時 15 分（Zoom によるオンライン会議）

出席者：構成員 51 名（定数 64 名）

■ 2022 年度総会

日時：2022 年 11 月 5 日（土）～11 月 13 日（日）（みなし総会〔Slack による質問・意見受付〕）

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 会員動向（10 月 1 日現在）

西村幹事より以下の報告があった。

・会員数：（2021 年 10 月 1 日から 1 年間の増減：住所不明者、年度末退会予定者を含む）

			増減
総会員数（賛助のぞく）		894 名	−95
（内訳）	顧問	6 名	＋1
	名誉会員	13 名	＋1
	通常会員	816 名	−90
	団体会員	4 名	−1
	海外会員	55 名	−6
賛助会員		19 社	±0

・〔昨年度除籍者〕42 名（国内会員 35 名 / 海外会員 7 名）［2021 年 11 月 15 日付］

・〔今年度除籍予定者〕59 名（国内会員 51 名 / 海外会員 8 名）

・ご逝去　1 名（笹倉　岳臣会員）

＊ 会員動向については、直近の数字ではなく、4 月 1 日付の状況を春の理事会に、10 月 1 日の状況を秋の理事会に報告する。［除籍者は 10 月中に確定］

1.2. 支部例会関連

濱田幹事より以下の報告があった。

・過去一年間の実績は『中国語学』269 号「彙報」を参照。

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2022 年度も支部例会活動は原則としてオンライン実施を継続。

・2022 年度後半の例会開催予定は以下の通り。

北海道支部	3 月
関東支部	3 月
北陸支部	3 月
東海支部	——
関西・四国支部	12 月
中国支部	——
九州支部	——

2. 編集委員会報告

千葉委員長より以下の報告があった。

・『中国語学』第269号は、2022年10月31日に1,200部を発行した。

・今年度の学会奨励賞受賞者は審議の結果、該当者なしとした。

・近年人を対象とした実験・調査・研究等の倫理規定が厳格化しつつあることに鑑み、「『中国語学』投稿に関する誓約書」を改訂した。『中国語学』270号の投稿からはこれを使用する。
・新旧委員が以下の通り交代した。
任期満了:千葉謙悟、張佩茹、中西裕樹、森宏子の各委員
再任：飯田真紀、伊藤さとみ、宮本徹、李佳樑の各委員
新任：鋤田智彦、吉川雅之、吉田泰謙、盧建の各会員

3. 学界展望編集委員会報告

秋谷委員長より以下の報告があった。

3.1. 2021 年学界展望の編集

2021 年「学界展望　語学」は 2022 年 10 月 8 日発行の『日本中國學會報』第七十四集に掲載され、また 2022 年 10 月 31 日発行の『中国語学』第 269 号に転載された。

3.2. 委員長および委員の交代について

今次は委員長および委員の交代はなかった。以下の現体制で引き続き 2022 年学界展望の編集を行う：秋谷裕幸（委員長）、橋本貴子、宮島和也、楊安娜、塩山正純、加納希美、濱田武志、小川典子。

3.3. 2019 年・2020 年「学界展望　語学」の中国語版

中国社会科学院文学研究所により、今年度は 2019 年と 2020 年の「学界展望　語学」中国語版が作成される。いずれも中国語版を日本中国学会報《学界展望》中国語版翻訳補助チームのメンバーとして秋谷が点検した。

4. 大会運営委員会報告

前田委員長より以下の報告があった。

〈報告事項〉

4.1. 第 72 回全国大会の準備状況

4.1.1. 招待講演

(1) 講演者：望月圭子（東京外国語大学）
題目：从语料分析的角度看学习者的母语类型与汉语的习得
(2) 講演者： 古川裕（大阪大学）
題目：文法研究から文法教育への貢献――数量名詞句をめぐる構文横断的研究を例として――

4.1.2. ワークショップ審査結果

5 月 31 日（火）に応募締切。応募総数 1 件。審議の結果、下記のとおり採用することに決定した（6 月 8 日持ち回り委員会決定)。

文法教育の現場から考える教育文法の課題（企画者：鈴木慶夏会員）

4.1.3. 研究発表（分科会・ポスター）応募・採択結果

6 月 30 日（木）に応募締切。応募総数 52 件。内、有効応募総数 51 件。不受理 1 件（同一の応募者による二重応募)。審査の結果、口頭発表 35 件、ポスター発表 1 件の計 36 件を採択した。不採択数は 15 件であった（7 月 26 日持ち回り委員会決定)。

4.1.4. 予稿集について

分科会の予稿集原稿の提出について、大幅な遅延が 1 件あった。また、70 回大会より、原稿作成にはテンプレートを使用することとしているが、提出された原稿のなかには規定の書式と異なるもの、頁数を超過しているもの、参考文献を記載していないものが多く見られた。

予稿集の編成作業には大会運営委員会の委員 4 名が当たり、電子版は 10 月 31 日に公開された。電子版は不分割のファイルと各論毎のファイルの両方を作成し、それぞれ下記 2 種類の加工を施した。また、不分割のファイルには、目次から該当ページのリンクを作成

した。

（1）ヘッダーに日付と「日本中国語学会第 72 回全国大会」の文言を入れる

（2）改変・改竄を防止するセキュリティをかける

4.1.5. ポスターPDF について

ポスター発表については、前回大会と同様、ポスター（PowerPoint のスライド）を PDF に変換したもの（A4 サイズ、横向き、1 ページにスライド最大 4 枚、2 ページまで可）をウェブサイトに掲載することとした（6 月 30 日持ち回り委員会決定）。採択件数 1 件について、提出があった。

4.1.6. 書店展示の方法について

5 日（土）、6 日（日）の大会期間中、オンラインイベントツール「oVice」のスペース内でバーチャル書店展示を行う。12 社参加予定。また、第 1 日目に CM 動画をリアルタイム配信する。配信時間は招待講演の開始前および各休憩時間。6 社参加予定。

4.2. 研究発表応募規定について

4.2.1. 発表辞退等に対する罰則

「ワークショップ応募規定」および「研究発表応募規定」を、それぞれ以下のように改訂する（9 月 22 日持ち回り委員会決定）。

（改正前）

「ワークショップ応募規定」

9. 採択された後に、正当な理由なく辞退したり予稿集原稿提出が遅延したりした場合、翌年の応募資格を認めないことがある。

「研究発表応募規定」

9. 二重投稿・応募後の発表辞退・予稿集原稿およびポスターPDF の提出遅延などの異例の事態に対しては、大会運営委員会から注意を促したり理由書の提出を求めたりすることがあり、正当な理由がない場合は翌年の応募資格を認めない。

（改正後）

9. 二重投稿・応募後の発表辞退・予稿集原稿*の提出遅延などの異例の事態が起こった場合、理由書の提出を求め、採択の取り消しおよび以降の本学会における活動を制限するペナルティを科すことがある。

*ポスターPDF の提出を求める場合、「研究発表応募規定」には「およびポスターPDF」を追加

4.2.2. 「人を対象とした研究」に対応した応募規定の追加

『中国語学』投稿規定改正に合わせて、「ワークショップ応募規定」および「研究発表応募規定」に下記規定を追加する（10 月 26 日持ち回り委員会決定）。

（追加）

10. 応募する研究発表が人を対象とする実験・調査・研究等に該当する場合、所属機関等において倫理審査を経る等の適切な措置を発表者の責任において講じなければならない。万一、研究倫理上の問題が発生した場合、発表者および共同発表者が一切の責任を負う。

（現行の「規定 10」を「規定 11」に変更）

4.3. 委員長・委員の交代

4.3.1. 次期委員長の選出

現任委員による互選により橋本永貢子委員を次期委員長に選出した。（8 月 28 日持ち回り委員会決定）

4.3.2. 委員の交代

退任：王周明（大阪大学）、奥村佳代子（関西大学）、濱田武志（神戸市外国語大学）、前田真砂美（奈良女子大学）、盧

建（名古屋大学）の各委員

就任：石崎博志（関西大学）、張恒悦（大阪大学）、張玥（公益財団法人東京財団政策研究所）、戸内俊介（二松学舎大学）、野原将揮（京都大学）の各会員
伊藤大輔会員（目白大学、2023 年度開催校代表）

5.「第 4 回中国語学セミナー」について

遠藤 WG 座長より以下の報告があった。

第 4 回中国語学セミナーを以下の通り開催した。

(1) 開催形態：オンライン(Zoom)開催
(2) 開催日：2022 年 9 月 10 日（土）14:30-18:00
(3) 講師と題目：
クリスティン・ラマール先生（フランス国立東洋言語文化学院・東アジア言語学研究センター） 「中国語の空間移動表現をめぐって――方言と会話データから」
秋谷裕幸先生（愛媛大学） 「北京方言のきた道」
(4) 聴講料：会員 1000 円、非会員 2000 円
(5) 申込者：98 名（内非会員は 3 名、座長除く）、当日参加者：94 名（講師除く）
(6) 事後にアンケートを実施し、参加者 35 名から回答を得られた。希望する講義の数は「2 つ」が 8 割であり、講義の内容は 9 割以上の参加者が理解できたと評価している。自由記述ではオンライン開催を評価するものが多かった。

6. 2023 年度の理事選挙について

竹越会長より、2021 年に時限的措置として設けられた「内規「会長及び理事選出方法に関する内規（→第 10 条関連）」に関する時限的変更追加文」を来年度以降は適用せず、「会長及び理事選出方法に関する内規（→第 10 条関連）」を次頁の通り改正することが評議会に諮られ、原案の通り承認された旨が報告された。

7. 辞典編纂委員会の解散について

竹越会長より、辞典編纂委員会が『中国語学辞典』発行日の 10 月 13 日付で解散した旨が報告された。

8. 顧問の委嘱について

竹越会長より、岩田礼会員と太田斎会員に本学会顧問を委嘱（2023 年 4 月 1 日就任）することが報告された。

【審議事項】

1. 予算案・決算案

1.1. 2021 年度会計決算案（資料参照）

・今井前幹事による報告と説明、及び飯田前会計監査による監査報告があり、報告の通り承認された。

1.2. 2023 年度会計予算案（同上）

・大西幹事による提案と説明があり、原案の通り承認された。

現行	改正案
会長及び理事選出方法に関する内規（→第 10 条関連） (1) 会長及び理事の選出は，全国大会に出席した国内の通常会員の投票によるものとする。 (2) 投票は 4 名連記により行う。得票数上位 8 名を候補者とし，その内最高得票者を会長，その他の 7 名を理事の当選者とする。いずれも得票が同数の場合は，年長者を当選とする。ただし，会長当選者が，候補者の過半数がこれを是とする事由により，会長就任に支障ある場合は，候補者 8 名の互選により，会長を選出するものとする。 (3) 理事長，会長を務めた者は，次回以降の選挙において，理事の被選挙権をもたない。 (4) 選挙は役員改選時の全国大会当日に行い，理事会の承認を得て会長が委嘱した選挙管理委員会が管理運営するものとする。 (5) 選出方法は，当分の間，会員が全国大会に出席の際，受付で投票用紙を配布し，大会会場に設置する投票箱に投票するものとする。投票は会員総会開会時をもって終了する。開票結果は会員総会にて報告する。	**会長及び理事選出方法に関する内規（→第 10 条関連）** (1) 会長及び理事の選出は，~~全国大会に出席した~~国内の通常会員の投票によるものとする。 (2) 投票は 4 名連記により行う。得票数上位 8 名を候補者とし，その内最高得票者を会長，その他の 7 名を理事の当選者とする。いずれも得票が同数の場合は，年長者を当選とする。ただし，会長当選者が，候補者の過半数がこれを是とする事由により，会長就任に支障ある場合は，候補者 8 名の互選により，会長を選出するものとする。 (3) 理事長，会長を務めた者は，次回以降の選挙において，理事の被選挙権をもたない。 (4) 選挙は役員改選~~時の全国大会当日~~の年度に行い，理事会の承認を得て会長が委嘱した選挙管理委員会が管理運営するものとする。 ~~(5) 選出方法は，当分の間，会員が全国大会に出席の際，受付で投票用紙を配布し，大会会場に設置する投票箱に投票するものとする。投票は会員総会開会時をもって終了する。開票結果は会員総会にて報告する。~~

2021 年度会計決算書

2022 年 11 月 13 日総会承認

日本中国語学会2021年度会計決算書（案）（2021年4月1日～2022年3月31日）

〈収入の部〉　　単位：円

収入	予算	決算
前年度繰越金	8,354,427	8,474,460
積立からの繰入金	2,420,000	2,420,000
通常会員・海外会員会費収入	5,000,000	5,183,097
賛助会員会費収入	600,000	540,000
『中国語学』売上金	400,000	347,216
学界展望補助金	300,000	300,000
中国語学セミナー受講料		138,703
通常貯金利子		66
計	17,074,427	17,403,542
備考：中国語学辞典寄付金		3,000,000

〈支出の部〉　　単位：円

支出	予算	決算
会誌印刷費	2,000,000	1,375,739
大会助成費	300,000	100,000
支部活動助成費	200,000	48,000
中国語学セミナー開催経費	200,000	60,000
通信費	300,000	210,906
事務費	2,000,000	1,708,098
大会事務費	300,000	53,400
学会連合等年会費	42,000	40,000
事務局費	450,000	450,000
編集委員会経費	120,000	12,281
学界展望編集委員会経費	300,000	300,000
ウェブリソース委員会経費	120,000	73,000
ホームページ関連経費	180,000	82,638
大会運営委員会経費	220,000	172,269
辞典編纂委員会経費	120,000	81,510
旅費交通費	700,000	0
会議費等雑費	180,000	0
学会奨励賞	100,000	100,000
選挙関連費	160,000	159,500
積立金 [内訳] 記念大会積立金（42万） 事務委託関係積立金（134万） ウェブサイト構築積立金（50万） 国際会議開催支援積立金（30万） コロナ禍基金　（100万）	3,560,000	3,560,000
予備費	5,522,427	8,816,201
計	17,074,427	17,403,542

監査の結果、経理内容は適切であり、経理諸表は的確に処理されているものと認めます。

2022年9月16日

2021年度会計監査　飯田 真紀　印

2021年度会計監査　石村 元　印

2023 年度会計予算案（2023 年 4 月～2024 年 3 月）　2022 年 11 月 13 日総会承認

単位：円

＜収入＞	
前年度繰越金	3,050,427
積立からの繰入金	3,700,000
通常会員・海外会員会費収入	5,000,000
賛助会員会費収入	600,000
『中国語学』売上金	400,000
学界展望補助金	300,000
計	13,050,427

＜支出＞	
会誌印刷費	2,000,000
大会助成費	300,000
支部活動助成費	200,000
中国語学セミナー開催経費	200,000
通信費	300,000
事務費	2,000,000
大会事務費	300,000
学会連合等年会費	30,000
事務局費	450,000
編集委員会経費	120,000
学界展望編集委員会経費	300,000
ウェブリソース委員会経費	120,000
ホームページ関連経費	180,000
大会運営委員会経費	220,000
選挙関連費	160,000
旅費交通費	700,000
会議費等雑費	180,000
学会奨励賞	100,000
積立金	4,840,000
[内訳]	
記念大会積立金(46万)	
事務委託関係積立金(138万)	
ウェブサイト構築等積立金(50万)	
国際会議開催支援積立金(50万)	
コロナ禍基金(200万)	
予備費	350,427
計	13,050,427

例会および全国大会開催のお知らせ

今年度の例会実施予定

各支部における今後の例会実施予定は次のようになっています。

北海道支部：2023 年 3 月
関東支部：2023 年 3 月
北陸支部：2023 年 3 月

次年度以降もひきつづき支部例会への発表、参会を歓迎いたします。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。この要旨は、学会ウェブサイト上の例会案内のページで紹介し、年に 2 回発行の学会ニューズレターにも掲載されます。

なお、開催予定は変更になることもありますので、詳細は各支部例会世話人までお問い合わせ下さい。担当者の連絡先については、学会ウェブサイトをご参照下さい。

（事務局）

第 73 回全国大会開催のお知らせ

日本中国語学会第 73 回全国大会は、2023 年 11 月に目白大学にて開催する予定です。開催形態および日程は未定です。決定次第お知らせいたします。また、ワークショップおよび一般研究発表の応募要項についても決定次第学会ウェブサイトに掲載いたします。

（第 73 回全国大会準備会）

事務局からのお知らせ

■『中国語学』270 号投稿論文募集

『中国語学』第270号の投稿論文を募集しています。締切は2023年3月10日（金）です。執筆要項、投稿規定、テンプレートなどにつきましては学会サイトをご参照下さい。
https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/journal/contribution.html

■ 退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出下さい。

■ 住所不明の会員

お知り合いの方がおられましたら、ご連絡をお願いします。

荒屋勸、泉興長、郭雲輝、金子真生、張桂珠、張立波、鄭亨奎、原由起子、苞山武義、余維、楊立明、井川壽子、小松紘一郎、孫樹林、陳瑩、李鵬、鄭琼花、張翼翔、楊纓、鄧宇陽、王天予、杜天邑、董微雨、趙暁熠、王仁靖、呂佳駿、鄭欣悦、曾曾、尚明輝、胡嘉怡、呉琪、大久保蛍、蔡子文

（敬称略）

■ 2022 年度会費納入のお願い

会費未納の方には、11月に振込用紙を同封して納入依頼のご連絡をお送りしました。年会費（一般会員6,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。速やかにご入金下さいますよう、御協力をお願いします。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会
口座番号：00980-6-282216

■ 顧問・名誉会員の推挙

顧問・名誉会員の推挙は、推薦文を添えて2023年9月30日までに学会事務局宛にお願いします。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は、第69回以前のものは好文出版にて1,500円でお求めになれます。第70回以降の大会予稿集は電子版のみの発行（非売品）です。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■『中国語学辞典』会員向け特別価格での提供

日本中国語学会編『中国語学辞典』（岩波書店）について、国内通常会員に対する特別価格での提供を行っています。対象は、会費未納のない国内通常会員（1人1冊限り、国内住所限定）で、定価17,600円（税込）のところを特別価格14,080円（税込）で提供します。ご希望の方は、学会ウェブサイトからe-naf（オンライン会員情報管理システム）にログインし、申込フォームに必要事項をご記入の上お申し込み下さい。なお、校費・研究費での積極的な購入も、一般書店を通じてお願いいたします。

■ 事務局の連絡先（2024 年 3 月まで）

事務局への送付先は以下の通りです：

〒651-2187　神戸市西区学園東町 9-1
神戸市外国語大学中国学科内
日本中国語学会事務局宛

急ぐ用件や返信を要する用件は事務局のアドレスにメールでご連絡をくださいますようお願いいたします。

また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

日本中国語学会会報　2022 年秋季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒651-2187　神戸市西区学園東町 9-1
神戸市外国語大学中国学科内
E-mail: jimukyok_clsj@chilin.jp
URL: https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/
発行日：2022 年 12 月 21 日